

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	a 全ての教育活動の中で「五つの心得」を推奨し、生徒の基本的な学習態度を向上させる。 目標:学習に対して積極的に取り組んだ生徒75%以上	「五つの心得」について生徒の意識喚起を図るために、講話や「時間の遵守」強化指導期間を設けた。この結果、五つの心得を「いつも守っている」「守ろうと心がけている」と答えた割合が約88%であり、一定の効果が認められる。また「授業や課題に主体的に取り組んだ」、「意欲が向上した」と答えた生徒が合わせて90%を超えていることから、「学習に向かう環境づくり」に一定の成果があったと判断される。	「五つの心得」は、社会人として生活する上での基本となるものばかりであり、今後とも多面的かつ継続的に生徒の意識喚起をしていかなければならない。強化指導期間中は意識が高かったが、終了後は意識低下した様子も報告されている。強化指導期間以外でも、生徒の自発的な心掛けに結びつくように、年間を通じて恒常的に指導していく必要がある。
	b 年間2回の公開授業期間を設け、研究授業や協議会を行い、指導力向上のための取り組みを推進する。 目標:授業の満足度75%以上	6月に公開授業週間を開催し、相互に授業参観する機会を設けた。また11月には6つの普通教科と各専門学科での公開授業(外部公開)を実施し、客観的な視点での授業研究・研修の機会とすることができた。「授業に満足している生徒」の割合が93.6%に達し、昨年度に比べ約2ポイント向上しており、授業研究の成果が反映されたと考えられる。	ICT機器を活用した授業が手軽に行える環境が整い、本校情報センターの丁寧なサポートもあって、ICT機器を活用した授業がかなり浸透してきたが、生徒個々がタブレットを活用しながら進める授業は、まだまだ手探りのところがある。「個別最適な学び」の実現に向けて、今後も研究を重ね、教員間で情報共有を行いながら、生徒がより一層意欲的、主体的に取り組める授業を展開できるよう研修に努める必要がある。
2 生徒支援	a 校門・生徒玄関での挨拶運動を通して自ら進んで挨拶し、時間を守れる生活態度を育成する。 目標:寝坊・不注意による1日平均の遅刻者数2.0人	1月14日時点での「寝坊・不注意」による遅刻者が282人(昨年は総遅刻者数が314人)。1日平均の遅刻者数は1.86人で目標は達成できた。特定の生徒やクラスに遅刻が多い傾向が昨年度より顕著であった。また、2学期以降遅刻者が増加傾向にある。	学期ごとに5回以上の不注意による遅刻者には、登校時に挨拶運動の特別指導を行っている。クラスによっては、1回の遅刻で翌日担任と共に挨拶運動をするクラスもあり、非常に効果を感じている。担任とも協力しながら、慢性的に遅刻する生徒の減少に取り組んでいく。
	b 生徒の自発的な活動を推奨し、生徒会行事(球技・合唱・文化祭・体育祭)を充実させる。 目標:生徒会行事の満足度90%以上。	96.4%の生徒が「非常に満足」「だいたい満足」と答え、前年度より微増した。新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や規模縮小した行事もあったが、生徒会執行部中心に、意欲的に学校行事に取り組めた。例年実施していた球技大会をスポーツレクリエーション大会として、運動が苦手な生徒も参加出来るような種目の設定をした。	生徒会行事については、多くの生徒が満足している。生徒会執行部を中心にしっかりと準備・計画をさらに向上させていきたい。合唱コンクールの実施については、難しい点も多く、それに代わるものとして、球技大会やスポーツレクリエーション大会の回数の増加を検討していきたい。
	c 毎月「いじめに関するアンケート」やいじめ対策委員会を実施する。 目標:教職員向けのいじめ認知に関する研修会を1回以上設ける。	毎月のいじめアンケートでは、これまでの紙媒体からタブレットを利用した入力に切り替え、担任のデータ保存の負担軽減を行った。アンケート実施後、いじめ対策委員会を開くことによって、早め早めの対応ができた。教職員向けのいじめ認知に関する研修会は実施出来なかった。	アンケートによっていじめを受けたと回答した生徒は全て県に報告(4名)。大部分が、コミュニケーション不足や対人関係の構築が苦手なことに起因しており、担任を中心とした学級づくりやクラス間の人間関係づくりを支援していく。
3 進路支援	a 進路ガイダンスやオリエンテーション、LT等を通して生徒の進路意識を高める。 目標:自分の進路決定に向けて意欲や関心を高めることができた生徒85%以上	進路に対する意識が向上した生徒が87.8%であったが、大きく向上したと答えた生徒は32.3%だったので、より大きく意識が向上するような取り組みを行う必要があると考えられる。	教員対象アンケートで、進路情報を積極的に提供した教員が34.5%だった。進路ガイダンス等の進路に関する行事だけでなく、担任から日常的に進路に関する情報を発信してもらうような取り組みや教員対象の進路に関わる研修等を充実させることで、教員の意識を高め、それを生徒の進路に対する意識の向上に繋げて行く。また、3年生を対象に行う個別指導の方法等について教員の共通理解を今まで以上に図っていく。
	b 生徒の実態に即した進路情報を提供する。 目標:自分の進路を考える上で必要な情報を得られたと感じる生徒が85%以上	進路に関する情報を得られた生徒が86.2%で、進路に関する情報が分かり易かったという保護者が75.7%で、生徒、保護者とも昨年度より少しではあるが下がっている。新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでとは状況が変わったため、企業からの求人や進学志望者の動向をより詳しく知りたいと考えた保護者が増えたことが考えられる。	保護者対象の進路学習会の参加数が多くなるような呼びかけや、進路希望調査で保護者のコメントをよりしっかりと書いてもらうなどの取り組みを通して生徒だけでなく、保護者の方の進路に対する意識を高く持ってもらえるようにしていく。また、新型コロナウイルス感染症の状況に応じた情報を発信できるようにする。
4 保健管理	a 定期健康診断や保健指導、毎日の健康観察を通して自らの健康状態を把握させ、自己の健康管理ができる生徒の育成を図る。 目標:自己管理ができた生徒の割合90%以上	生徒アンケート評価で90.5%が自己の健康管理に心がけていると回答した。新型コロナウイルス感染症予防対策として健康観察や昼食時の見回り、注意喚起の校内放送を継続的に行った。また、感染症予防対策として、手指消毒液の管理や各クラスへ非接触型体温計、持続抗菌スプレー(Zoono)を配布した。保護者会時に高濃度手指消毒液や生徒玄関にスタンド式温度計を増設し、オミクロン株に対する感染症予防対策を実施した。今後も継続した取組が必要である。	長引く新型コロナウイルス状況下に慣れて感染予防がおろそかにならないよう、工夫した注意喚起や対策が必要である。また、日々の健康観察からの情報等から生徒個々の体調不良の早期発見・対応を行い、各関係者と連携して感染症流行の予防に繋げたい。
	b 清掃指導や美化委員会の活動を通して清掃活動に自ら取り組む生徒の育成を図る。 目標:清掃活動にまじめに取り組んだ生徒の割合90%以上	生徒・教員評価とも90%の目標数値を大きく上回り「大体取り組めた」と回答した。生徒、教員とも清掃に関する意識や活動意欲は高い水準である。美化・保健委員長のゴミステーション当番や水拭き重点DAY、美化コンクールが効果的に実施できた。校内環境美化に対する保護者評価も94%が「大体清掃が行き届いている」と高評価であった。学校評価の数値は高評価ではあるものの、一部の場所によっては清掃状態が不完全なところもあるのでさらに美化意識向上を促す必要がある。	さらに全員が自ら進んで清掃に取り組む姿勢が身につくよう、美化委員を活用する等して通常清掃はもちろん、清掃強調週間や美化コンクールの内容の改善・見直しを図りたい。学年会や各部署と連携し、生徒の勤労意欲・意識向上に繋げたい。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
5 図書館利用	a 朝の読書やLT・授業などで読書習慣の啓発に努める。 目標:年間図書貸出冊数1,000冊以上	各教室にプロジェクターが設置され、生徒一人に1台タブレットが整備されたことから、授業での図書館利用が激減した。その中でも今年度の貸出冊数は目標の1,000冊を超えた。しかし、リピーターが多く1冊も借りたことがない生徒も多数いる。幼少期からの読書体験の差もあり、今まで本を読まずにきた生徒に読書習慣をつけさせるのはかなり難しい。	LT時等に図書館企画として「ブックトーク」や「読み聞かせ」などを行い、本に興味を持ってもらうような取り組みをしている。 朝の読書週間の時の様子を見ると、静かに本と向き合っている生徒が多く見られたので、今後朝の読書の回数を増やすことも検討していく。
	b ICTを積極的に活用した授業を通して、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう推進・支援する。 目標:生徒・教職員のICT使用環境に対する満足度75%以上	2020年度に導入されたchrombookを含むICT機器活用に関し、生徒では92.8%、教員も77.6%が活用していることから、ICT機器を活用した授業をとおして深い学びに結びついていると思われる。また、トラブル発生時に素早く対応していることも、授業に大きな支障が出なかった要因であったと思われる。	生徒、教員ともに活用できていないとの回答があることから、ICT支援員の助言をいただき、ICT活用の推進を行っていく。
6 保護者・同窓会との連携	a PTAが関わる行事のホームページ更新やPTAだよりを発行し、学校の情報を保護者に提供する。 目標:学校の情報や取り組みがわかる割合80%以上	PTAだよりにより教育活動やPTA活動の様子が分かりましたかという質問に対して、肯定的な回答が90%以上であった。PTAだよりを通して、本校の取り組みや多くの情報を保護者の方に発信することができた。PTA活動は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から活動を縮小したが、ホームページに掲載しPRすることができた。	学校の取り組みを保護者や地域の方へ理解してもらうことに今後も努めていきたい。PTAだよりの内容を充実させるだけでなく、保護者が見やすく分りやすい紙面作りを心がけて取り組んでいきたい。ホームページにPTA活動を掲載することで、地域の方にPR理解を深めてもらえるように取り組んでいきたい。
	b 同窓会総会人数増への取り組みや読みやすい同窓会誌づくりを通して、活発な同窓会活動を目指す。 目標:同窓会役員会の参加割合70%以上	総会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、支部長までの役員の参加とした。同窓会誌については、同窓会と母校の活動報告だけでなく、新たに恩師や卒業生の活躍を掲載した。今後も同窓会員からの幅広い情報を収集する必要がある。	同窓会誌については、情報収集に取り組み、内容の充実や見やすい紙面の配置等を改善していきたい。また、SNS等を活用し同窓会員へ情報発信できるように、同窓会役員と検討していきたい。こうした活動を通して、同窓会総会の参加増につなげていきたい。
7 専門農業系指導	a 地域社会や産業界と連携を深める。生産、調理・加工、販売に総合的に取り組める力を習得させる。専門教科の内容に関心を持ち意欲的に学習させる。 目標:専門教科の学習に「意欲的に取り組んだ」という生徒80%以上、アグリマイスター認定者10名以上	生徒たちは、専門的学習に対して意欲的に取り組み、課題研究発表会を通して成長することができた。EASTIVALでは、子どもから大人まで、本科の取り組みを見ていただき、好印象を持っていただいた。農業科の活動に積極的な取り組みを見せた生徒が98%となりたいへん良い結果となった。またその保護者の方からもその様子が見られるという結果をいただいた。専門教科への意欲的な取り組みにより、19名がアグリマイスターに認定された。	積極的に取り組んでいる生徒の集計結果から、生徒が「やってみよう」という気持ちが見られた。今後は、印象的な取り組みを行い、幅広い世代へ伝わるような取り組みを心がけたい。生徒の前向きな気持ちが見えるように、アグリマイスター認定者を増やす取り組みをしたい。
	b 農業クラブで学習成果を発表し上位大会に出場する。 目標:北信越・全国大会で入賞	新型コロナウイルスへの対策を講じながらの活動であったが、平板測量競技において、全国大会へ出場し優秀賞を受賞することができた。一方、意見発表や農業鑑定競技、プロジェクト発表会での結果を残すことができなかった。令和4年度全国大会(北陸大会)のPR活動を積極的にに行い、農業クラブ活動への理解を深めるよう努めた。現在の活動に満足することなく取り組むことが大事だが、生徒数の少なさと教員の指導時間の確保が課題である。	農業鑑定競技、意見発表競技、プロジェクト発表会、平板測量競技会などの全国大会の様子を生徒に伝えていきたい。また、各競技の入賞を目指して取り組みたい。学校生活や校外活動、各種事業を活用して、研究活動を継続し内容を高め全国大会へ出場を目指したい。
8 専門工業系指導	a 実習を中心とした学習指導を充実させ、技術・技能・社会規範を習得させる。専門科目の内容に興味・関心を持たせ意欲的に学習させる。 目標:所属学科の活動に「積極的に取り組んだ」という生徒70%以上。	学校評価アンケートにおいて『学科の活動に積極的に取り組んだ生徒』は、95%となりたいへん良い結果となった。また、学習と進路に関する調査において、『授業中に生徒間で話し合う活動を行った生徒』は、69.8%に留まったが、昨年より14.3%向上した。	学科の活動に積極的に取り組んだ生徒の集計結果は目標を達成した結果となった。この積極性を活かせるように工夫をし、併せて教員の授業向上の意識を高め、授業に興味・関心を持たせていきたい。また、ICT機器を積極的に活用し、授業の創意工夫に努めたい。特に、一人1台のタブレット型PCを利用したオンライン授業についても実践的な使い方を模索したい。
	b 資格や検定試験の受験を働きかけ、取得できるように支援する。 目標:ジュニアマイスター認定者5名以上	ジュニアマイスター顕彰において、ゴールド2名、シルバー0名、ブロンズ3名の計5名の認定者を出すことができ、目標指数を達成することができた。今後はシルバー以上の認定者をいかに得るかが課題である。	資格試験の基礎学習を充実させると共に、実技指導の外部講師を積極的に活用し、より効率的な受検対策や充実した補習等で、受検者数や合格者数を増やしていきたい。
9 専門商業系指導	a ビジネスに関する学習に関心を持ち、将来を見据え、意欲的に学習する力を育成する。 目標:知識や技術(資格)の取得に意欲的に取り組んだ生徒の割合70%以上、全商1級3種目以上表彰者3名以上	授業や課題・宿題・模擬試験などに積極的に取り組んだ生徒は52%で、多くの場面で積極的に取り組めた生徒と併せ、90%以上の生徒が意欲をもって取り組んだ。ただ、全商1級3種目以上の表彰者は2名で昨年度より増加したが残念な結果に終わった。	毎日の授業で、検定試験の勉強をさせ、合格したらそれで終わりではなく、卒業後も実務で活用できるよう、習ったことを忘れないような指導を模索したい。検定試験の合格を目指して1つでも上位級を受験し、1級の合格者を増やしたい。3年生で進路決定後は、検定試験の受験希望者が減ってしまうため、できる限り2年生での上位級取得を実現させるのが課題である。
	b 地域との連携を深める活動を通して、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を育成する。 目標:挨拶や言葉遣いの大切さを知り、その実践に努めている生徒の割合70%以上	地域と連携する行事のうち、2年生のインターンシップは実施できなかった。3年生の課題研究でも、例年なら小浜市の夏祭りに参加していたのが中止となって残念であった。外部の人と接する機会は減少したが、90%以上の生徒が場に応じた挨拶をしている。	毎日の授業の中で挨拶ができる生徒を育て、インターンシップや課題研究などの校外での活動において、自然と挨拶ができるよう指導する。いつも正しい服装ができる生徒を育てたい。